

(確定版)

名 称	令和4年度 第1回 目黒区障害者自立支援協議会 本会議
日 時	令和4年6月17日(金) 午後6時～午後7時50分
会場	中目黒GTプラザホール
会議次第	1 開会 2 報告事項・議題 (1) 障害者自立支援協議会とは (2) 運営会議からの協議事項 ・自立支援協議会イベントについて (3) 区からの報告事項 ・障害者計画策定に係るアンケート設問への意見募集結果及び対応方針等について(障害施策推進課計画推進係) ・地域生活支援拠点(障害施策推進課計画推進係) ・基幹相談支援センター(障害施策推進課計画推進係) ・精神障害者地域移行・地域定着推進連絡会(障害者支援課精神障害福祉・難病係) ・発達障害支援拠点ぽると(障害者支援課発達支援係) (4) 専門部会からの活動報告 3 その他 4 閉会
出席者	委員：岩崎委員(会長)、北本委員(副会長)、新開委員、会田委員、三木委員、池田委員、阿部委員、白濱委員、徳永委員、松原委員、野村委員、渥美委員、岸井委員、白鳥委員、田村委員、田島委員、重盛委員、本間委員、橘委員(保健予防課長)、田中委員(障害施策推進課長)、岩谷委員(障害者支援課長)、大塚委員(子育て支援課長)、山内委員(教育支援課長) その他区職員：竹内(健康福祉部長)、浅野(身体障害者相談係長)、田所(精神障害福祉・難病係長)、長谷川(発達支援係長) 事務局：小野(計画推進係長)、塩屋・増淵・村野(計画推進係)、盛岡・鈴木・横川(基幹相談支援センター)
欠席者	山本委員、町田委員、江見委員、征矢委員、河手委員
配布資料	資料1：目黒区障害者自立支援協議会の概要 資料2：自立支援協議会イベントについて 資料3-1：障害者計画策定に係るアンケート設問への意見募集結果及び対応方針等について 資料3-2：令和3年度 地域生活支援拠点相談実績 資料3-3：令和3年度 基幹相談支援センター事業活動報告 資料3-4：令和3年度精神障害者地域移行・地域定着推進連絡会及び精神障害者退院相談支援事業の活動報告

	<p>資料3-5：発達障害支援拠点ぽると 事業実績 資料4：専門部会からの報告 参考資料1：目黒区障害者自立支援協議会設置要綱 参考資料2：令和4年度自立支援協議会 委員名簿 参考資料3：令和4年度 第1回目黒区自立支援協議会本会議 席次表</p>
<p>会議内容</p>	<p>1 開会 令和4年度から新たに委員となった3名（岩谷委員・大塚委員・山内委員）の紹介を行った。</p> <p>2 報告事項・議題 (1) 障害者自立支援協議会とは 事務局から資料1に沿って説明を行った。 (2) 運営会議からの協議事項 ・自立支援協議会イベントについて 事務局から資料2に沿って説明を行った。</p> <p>委員 新型コロナウイルス感染症により中断する前は「つながろうメグロ」というテーマで実施してきた。実行委員会は、月1回定期的に集まっていたため、負担はあったが知らないことを知るきっかけとなり、区民の方に知っていただく機会になるようになってきた。イベント実施後アンケートでは、区民がチラシ等を見て来場したというのは少数であった。委員が変わり、現在定期的に活動している部会が全体の半分程度であり、従来通り行うのは難しいのではないかと。区からの提案1のふれあいフェスティバルで協議会をPRするのがいいと思う。</p> <p>委員 最初の3回と、4回目以降だとだいぶ毛色が変わってきている。3回目までは地道な話し合いで4回目以降は少し派手な演出をしていた。新型コロナウイルス感染症拡大や委員の入れ替わりで、従来通り行うのは難しい。区民に伝えるより、障害福祉で活動している職員や、利用者、家族などにメッセージを届け、理解をしてもらおうイベントにしたらどうか。そうすると部会の活動や協議会全体の活動等の話、現場で困っている人の意見を吸い上げることができると思う。</p> <p>委員 一般就労部会の利用者は比較的一般企業に仕事に行くような方たちと、その支援をしている部会員のため、あまり自立支援協議会に馴染みがない。協議会がもう1回元気を出すためには、何かあってもいいという思いはあるが、負担があるという声が多い。先日の部会では、西口ロビーで展示をやれば、これまで大会議室まで来なかった区民の方にも伝わるという案</p>

が出た。他にも、庁舎南口のエントランスを使って平日に無理のない範囲でロビーとリンクするようなものをやれたらいいと思う。

委員

開催したい。提案1のような、事業所連携という原点回帰で、自分たちは何を課題に、何を地域資源として求めるのか、また、相談支援のケアプランの中で足りないものへの対応の検討を含めるのはどうか。一般就労の方たちがVTRを使って活動PRをしたように、自立支援協議会の活動についてYouTube等や、ふれあいフェスティバルで発信する、あるいはPR動画を送る等、小さいながら効率的で効果の高いイベントができたらいと思う。

委員

各年度でイベントを必死にやるが、そのあとの振り返りができず、やりっぱなしというのが正直なところ。実施すれば、人と人との繋がりというのは確実に身になるため、ふれあいフェスティバルで、今までの活動を振り返るものをイベントのブースの中で行いたい。平成25年から元年度までの色々なゲストから2、3名の方、あるいは団体に声をかけて一緒に行えたら良い。

委員

1、2回目の実行委員会はすごく大変そうだった。区民の方々に知ってほしいことは自立支援協議会なのか、障害福祉に関する理解なのか、がまとまっていなかった。区民向けにアピールしたり、地域連携を考えたりしたいのであれば、提案1のような、ふれあいフェスティバルで一緒になって何かできる事をすればいいと思う。一方で自立支援協議会に参加している人たちはごく少数で、職員たちが自立支援協議会を知らない、興味が無いというのが多い気がする。実際自立支援協議会・部会はどんなことをやっているかを内部の共通認識として、また地域と繋がることを考えていければいいと思う。

会長

意見で多いのは提案1のふれあいフェスティバルに参加するということだが、歴史の変遷のなかで協議会は当初、様々なことを吸い上げて反映していくという思いを持って開催されていた。それが、担い手が若返るとともに企画の幅も広がり大変すぎたという印象がある。協議会の活動を理解してほしいと思いながらも、協議会を行う理由として、最終的には目黒区の障害福祉の質を上げていく、みんなが幸せに暮らせるということだと思う。障害のある人もない人も一緒に地域で暮らしていることを一般の方に理解してもらうことが大事。

副会長

イベント実行委員会が立ち上がったときは、自立支援協議会が何かを伝えることを通して目黒の障害者福祉も伝えたいという2つの効果を狙っていたため、目的が不明確になってしまった。そのため、もう一度自立支援協議会に焦点を当てたり、イベントを通して自立支援協議会の活動を伝えたりする方法もあると思う。区民向けには、動画公開など、誰でもアクセスできる形で行い、対面の場合は、イベントを動画に撮ってアップするという形でもいいと思う。また、ふるさと納税の返礼品に障害のあるかたの作った品物を入れるなどの形を積極的に入れ込んで、PRしていく。そのような活動は、区民にとっても区の福祉の向上や、障害のことも詳しくなるため、win-winになると思う。

委員

部会でもイベントについて話をしてきたが、関係者だけでなく、一般の方にも知っていただきたいというのがほとんどの意見。その方法として動画配信が挙げられた。部会ではすでにイベント係を決めていて携われる体制を整えている。イベントの提案1～3の中で、区民の方へのPRという点では区報配布が全戸になったこともあり、すごく有効だと思う。また、自立支援協議会のメンバーの体制を再構築したり、イベント目的と一緒に考えたりするという点で、提案1のイベントの中で何かできるといいと思う。

委員

活動しにくい2月ではなくて秋や初夏に開催したほうがいいと思う。自立支援協議会の内容を知っていただくのは、イベントで一時的にではなく、継続性があった方がいいので、自立支援協議会を動画配信するのも良いと思う。

委員

イベントにも何回か参加したが、関係者だけが集まっている印象があり、法人内でも自立支援協議会を知っている職員が少なく感じる。職員や利用者にも知っていただけるようなイベントを開催したらいいと思う。

委員

自立支援協議会の設置目的にあるように、情報発信や情報の共有、障害者の生活実態や社会資源の把握が目的だと思う。協議会そのもののPRということであれば、負担軽減を考える場合に提案2の広報や、啓発グッズの配布で目的は達成できると思う。広く一般区民に向かって社会資源の実態について情報発信していくことに意味があると思う。方法や内容、準備期間等について、仮に例年通りの2月じゃないとした場合、12月のふれ

あいフェスティバルで区民に向かって協議会や生活実態、社会資源をPRしていくブースを設置するのがいいと思う。留意点としては12月に間に合うのかという点である。

委員

自立支援協議会というのは、障害のある子どもの保護者も何をやっているのか分からないという状況であり、宣伝しないといけないと思う。障害のある方だけでなく、地域の方、区民に知っていただくのはすごく大変だと思う。

委員

自立支援協議会の活動やフェスティバルの対象・目的が明確でなく、分かりにくかった。区民ではなく、まず関わっている当事者、家族などにもっと身近に感じていただけるようなアピールをしていけたら良い。自分たちが生活している中で思うことが自立支援協議会にどの様に繋がり、伝えることができるのかが全く分からない。提案1のような比較的色彩な方がいらっしゃるところで、自立支援協議会の活動内容が分かるようなブースがあれば、より身近になるのではないかと思う。

委員

以前新しい学校を作ったとき、工事が長期化し、近所にご迷惑をかけた。ターゲットを絞らず、文化祭やバザーの案内を出した際に、「障害のある方たちのものだろう。」と、一般の方がなかなかいらっしゃらなかった。思い切って地域の方にターゲットを絞った。校内見学会を行ったところ、7、8家族いらした。いつでも誰でも、というのは、実は参加しづらいと改めて思い、ターゲットを見極めて行う必要があると思った。

委員

3つの視点があると思う。1点目は、関係者が理解を深めるための情報共有という視点。2点目は、障害福祉を向上させることが目的とした、地域の方、区民の方へのアピールや、関心を持っていただけるようなきっかけ作り。3点目は、輪を広げ、障害というくくりではなく、あくまでも多様性の一つとすれば裾野が広がっていくと思う。

委員

関係者や区民への周知のためにもイベントは実施する方向で検討していると思う。

会長

何らかのことを実施ということで共通認識だと思うが、問題はそのイベントを実施するときの目的や対象者。とりあえずは協議会の活動をPRしつつ、色々な関係者の方との交流だと思う。提案1のふれあいフェスティ

バルへの参加、あるいは展示、加えて提案2の広報、あるいはYouTube配信等、それらを絡めて行っていく形で、後日改めて協議していくという形で大丈夫か。

事務局

今後については、事務局のほうで今日のご提案内容を整理した上でお知らせする。

(3) 区からの報告事項

- ・障害者計画策定に係るアンケート設問への意見募集結果及び対応方針等について
- ・地域生活支援拠点
- ・基幹相談支援センター

計画推進係長から資料3-1、3-2、3-3に沿って説明を行った。

- ・精神障害者地域移行・地域定着推進連絡会

精神障害福祉・難病係長から資料3-4に沿って説明を行った。

- ・発達障害支援拠点ぽると

発達支援係長から資料3-5に沿って説明を行った。

(4) 専門部会からの活動報告

高齢化・GH対策部会

高齢化・GH対策部会は、部会員の確保のため、アンケート調査を実施して各事業所の状況や意見を集めてきたが、まだ対面での活動はしていない。名前として高齢化・GH対策部会となっているが、日中活動の施設の高齢化と、GHの高齢化でかなり事情も違い、勤務時間も逆のため、一緒に検討することが難しく、今年度は日中活動の人たちが中心に集まる部会と、GHの部会とを分けて実施し、課題の解決や意見交換、具体的な取りまとめを行いたい。

一般就労部会

6月の初めに第1回部会を開催した。今年度の活動の内容として、現在区外で就労される方が増加しており、区内の移行支援事業所が、なかなか元気が出ないため、1年間区内の移行支援事業所を応援するような活動や、区内の企業とうまく連携が取れるような活動を行う予定。

施設就労部会

7月に1回目の部会を開催予定。前年度に1回部会を行った。部会員は10人余りだが、出席できる方は5、6割。部会員の人数が少ないため、時間を調整して参加するのが難しい。

子ども部会

4月から毎月1回程、定例会を開催している。5月は、障害福祉計画について話し、6月15日の定例会では事例検討を行った。学習支援の民間

の事業所が、学校に行きにくい子が地域と繋がるための対応事例を個人が分からないように報告、グループワークを行った。今年度の活動は、事例検討をあと2回、他にも学習会、行政との懇談会、防災について、学校見学を予定している。課題として特別支援学校との連携の難しさを挙げているが、昨年度、相談支援事業所が、お子さんの就労について学校の先生と連携が難しかったことから、特別支援学校の校長先生に子ども部会の案内を差し上げた。目黒区の事業所リストブックに掲載されている児童発達支援、放課後等デイサービス、その他の方々に子ども部会の案内を送り、6月の部会に傍聴という形で参加いただいた。

防災部会

2月22日に行政と話をしたが、参加者が3名の個々の考えの発言になってしまった。その後、他専門部会の部会長2名に協力していただき、会議を開き、6月29日に防災部会のコア会議をしようと考えている。現段階で部会員が2名から9名となっており、更に3名追加予定で、合計12名程の部会員で発足する見込み。ただ、課題ばかりの話をするのではなく、それぞれが感じている地域の防災意識に関する課題等を共有していく。その中で方策を考えたり、できることを部会で提案し、共有的、横断的に話し合える場をつくるため、現在アンケートを行っており、9月に第1回開催ができるよう活動している。

委員

2年前、新型コロナウイルス感染症拡大前に、自分も地域移行のことで区の職員と病院を回り連携を強めようとしたが、感染症拡大で止まってしまった。感染症拡大で地域移行の難しさや、自立を支援することについて、改めて考えさせられた。地方では入院した病院と地域医療とが近いため関連しながらやっていけるが、東京都の場合、入院医療と地域医療が断絶しているため、連絡などが上手くいかない。東京都は障害者や生活保護を受けている方も多いが、孤立している。感染症拡大でそれを強く感じ、地域移行・自立支援が「孤立支援」になっているのではないかと感じた。関係機関とより有機的なつながりを持った地域移行を考えていきたい。リモートなどの新しい仕組みを考えられたら良いと思う。また、東京都は、区立病院を持っていない。多くの高度な技術を持つ病院があるが、自治体が連携できる病院を持っていない。やはり、拠点病院があることが大事なのではないか。

副会長

防災部会の報告で、横断的に話し合える場について話が出たが、BCP

のことはどこの部会も関係すると思う。また、自立支援協議会は、政策を提言する役割がある。5月19日に障害者情報アクセシビリティコミュニケーション施策推進法が制定された。これは行政が整えてと思うが、早い段階で現場の方へ投げかけて意見を吸い上げていく形もありだと思う。なので、協議会の方の意見を聞く等の関わりもあると思うので、そのような法律ができたときに皆さんの意見を聞いていただく活用をしていただけるといいと思う。

3 その他

事務局

次回は10月14日（金）に、本日と同じく午後6時頃から令和4年度第2回目黒区障害者自立支援協議会を予定。1か月前頃を目途に改めて通知する。

4 閉会